

知的資産経営報告書

2026年版



目次

1. 代表挨拶	2ページ
2. 企業概要(事業/新工法/実績/知的財産など)	3ページ
3. 沿革	12ページ
4. 業務フロー	17ページ
5. 商流	22ページ
6. 知的資産	23ページ
－理念資産	24ページ
－組織資産	25ページ
－関係資産	27ページ
－人的資産	28ページ
7. 現在価値ストーリー(知的資産の繋がり)	31ページ
8. 経営環境	32ページ
9. 将来ビジョン	34ページ
10. 将来価値ストーリー(将来の強化ポイント)	35ページ
11. アクションプラン	36ページ
12. 会社概要	37ページ
13. 知的資産経営について	38ページ

代表挨拶

この度、自社の歩みを振り返り、目に見えにくい強みである「知的資産」を見つめ直す機会を得ました。一人の技術者として橋梁に向き合った創業期から、「ないものは作る」という気概で独自の工法開発に挑んできた現在に至るまで、数々の逆境を乗り越えられたのは、確かな技術と信念の積み重ねがあったからこそと実感しております。

私たちが何よりも大切にしてきたのは、「IKEMOTOなら安心」と言っていただけの信頼関係です。「できない」と言われる難題に対し、共に知恵を絞り、厳しい安全基準を守り抜いてくださる協力会社の皆様、そして私たちの技術を信じ、価値あるインフラの守り手として選んでくださるお取引先様の助力なくしては、現在のIKEMOTOは成り立ちません。この場を借りて心より感謝申し上げます。そして、単なる作業員ではなく「誇り高き仕事師」として『無事故・無災害』を継続して現場を守り続けてくれる全社員。自ら考え行動することで、私たちは「無事故だからこそ利益が出る」という強い組織へと成長しました。家族のために安全を誓い、仕事に向き合う皆の真摯な姿勢が、IKEMOTOのブランドを築き上げてきました。本当に感謝しています。

この確かな知的資産を胸に私たちは世の中にない技術を生み出す「開発型企业」へと挑戦を続けます。独自技術で不可能を可能にし、これからも関わる全ての方々と共に「地図に残る仕事」を守り抜いてまいり所存です。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社IKEMOTO
代表取締役 池元 博之



事業概要



橋梁上部工事



橋梁耐震工事



橋梁補修工事



トンネル補修工事



橋梁足場工事



一般土木工事

当社が開発した新工法(FMAシステム)



超強力磁石部



超強力磁石+FRPパイプ



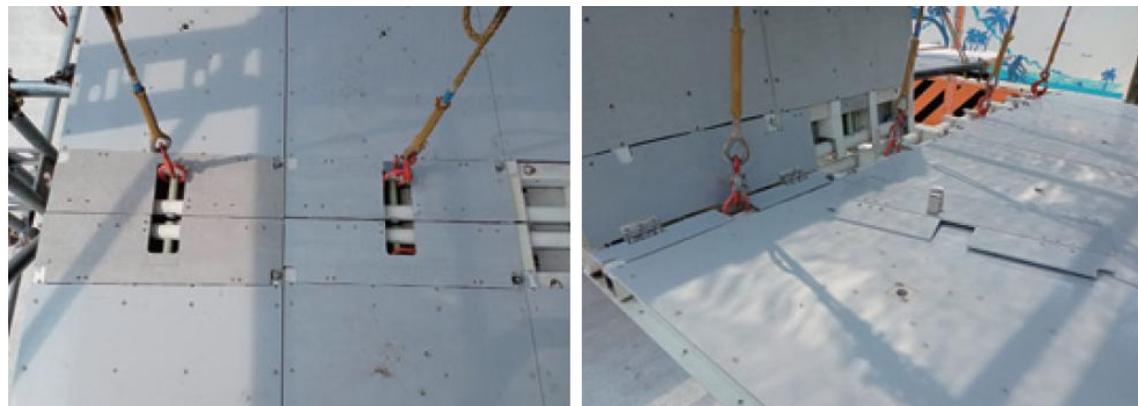
現場の試験体



FRP三角ブラケット

超強力磁石とFRP部材、チェーンを組み合わせた強風・落下に耐える工法
新幹線上空など、従来は足場が困難だった場所でも施工が可能となります。

当社が開発した新工法(MULBERRY)



「Mulberry(マルベリー)」は英語で「桑の木(実)」を意味します。日本では古くから「桑には雷が落ちない」という言い伝えがあり、落雷から人を守る象徴として親しまれてきました。高圧電線が張り巡らされた現場で作業員の命を守るという想いを込めて「Mulberry(マルベリー)」と名付けました。

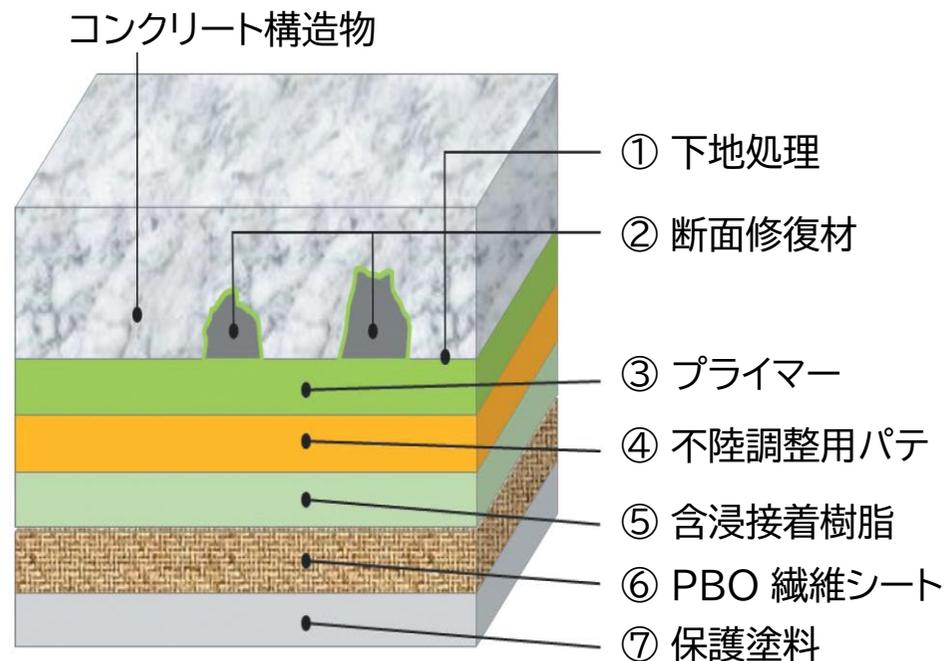
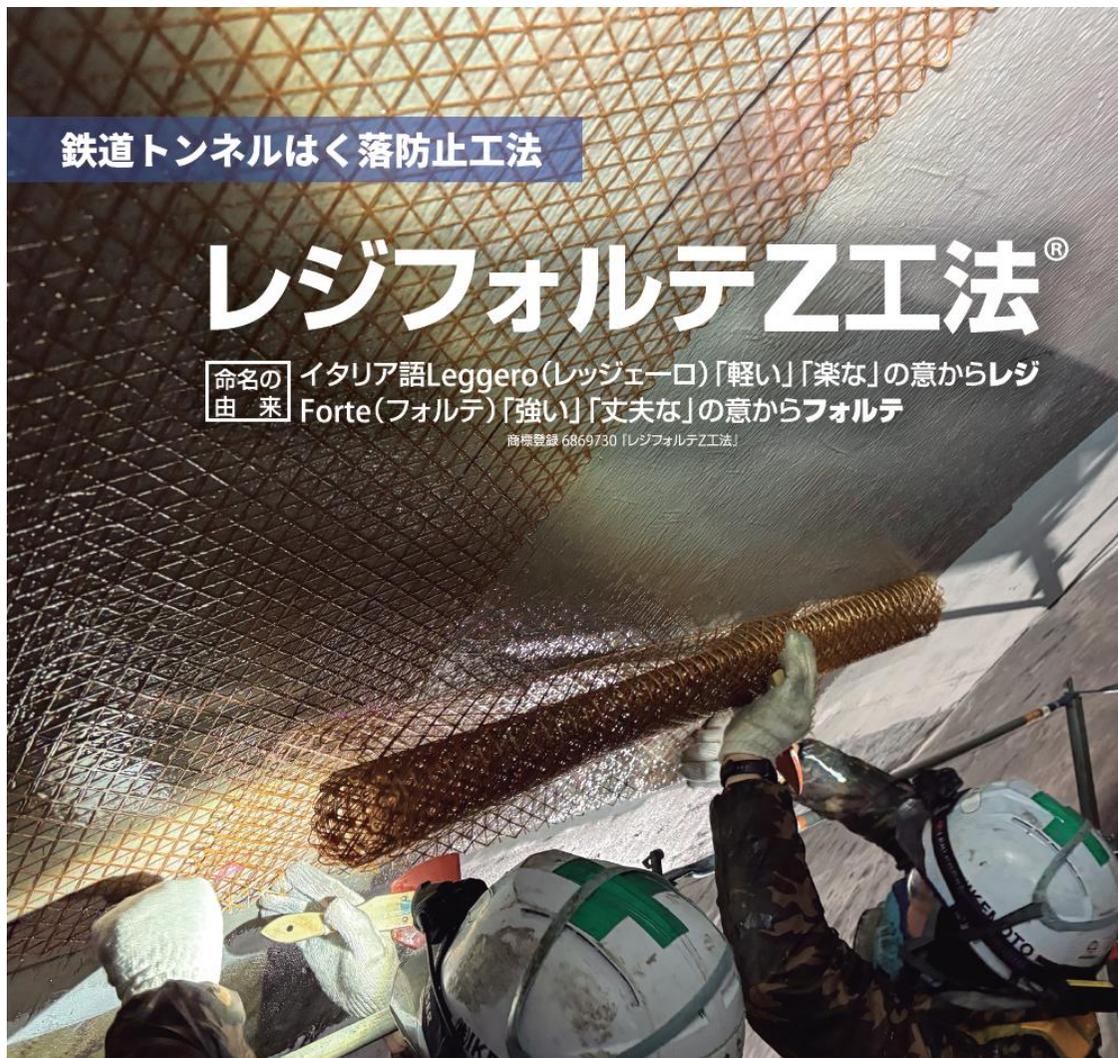


工法に関する詳細な説明を動画でも確認して頂くことができます。左のQRコードまたは下記URLからアクセスしてください。

【URL】
<https://youtu.be/MNhjHsjUyeQ>

高圧電線近傍で作業員の感電を防ぐ絶縁素材製の吊り足場ユニット式で組立効率が高く、強度300kg/枚を確保します。

当社が開発した新工法(レジフォルテZ工法)

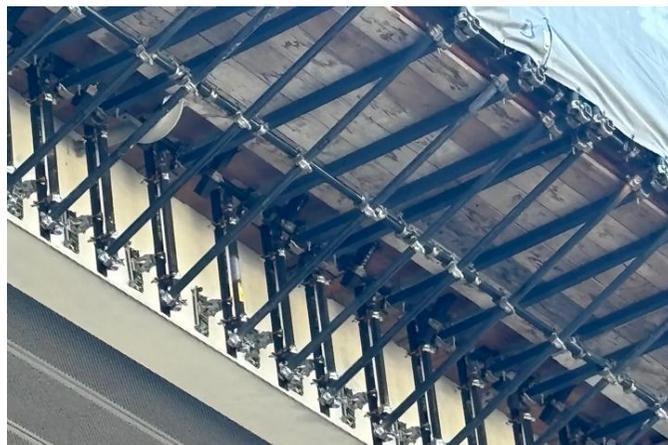


工法に関する詳細な説明を動画でも確認して頂く事ができます。左のQRコードまたは下記URLからアクセスしてください。

【URL】
<https://youtu.be/KDSd2KEuhic>

PBO繊維シートと変性アクリル樹脂を併用したコンクリートはく落防止補修工法
軽量・疑似等方性・速硬化・低温硬化性により短工期で施工可能です。

施工実績①



【山陽新幹線 新倉敷・福山管間 谷井こ線橋】 「FMAシステム(超強力磁石とFRP部材、チェーンの組合せ)」を活用した現場



【山陽新幹線 下山路橋梁(PCグラウト注入工事)】 一般車両通行下での飛散防止など安全対策を実施

施工実績②



【瀬戸大橋 塗装工事】 海上の橋梁で強風対策に取り組みながら施工した現場



【岡山駅構内噛合わせ鋼板巻耐震補強工事】 列車が常時走行する現場で安全対策を実施した上で行った耐震補強工事

知的財産(特許及び商標)



【特許】 跨線橋用作業足場の設置構造

【商標】 MULBERRYおよびレジフォルテZ工法(UV仕様)

※「レジフォルテZ工法(UV仕様)」はデンカ株式会社、帝人フロンティア株式会社、太平化成株式会社、株式会社IKEMOTOの共有商標です。

企業概要(資格および作業主任)

資格

1級土木施工管理技士	4名	1級土木施工管理技士補	1名
2級土木施工管理技士	7名	2級建設機械施工管理技士	1名
コンクリート技士	1名	登録薦・土工基幹技能者	4名
JR西日本工事管理者(幹)	7名	JR西日本工事管理者(在)	7名
JR西日本重機運転者(幹)	6名	JR西日本重機運転者(在)	6名
JR西日本重機運転者(軌陸)	4名	JR西日本特殊運転者	2名
JR西日本検電接地作業者	6名	JR四国工事管理者	2名
あと施工アンカー第1種施工士	7名	あと施工アンカー特2種施工士	1名
コンクリート補修施工管理技士	5名		

作業主任

コンクリート解体作業主任	2名	コンクリート橋架設等作業主任	5名
型枠支保工作業主任者	7名	足場組立作業主任	10名
有機溶剤作業主任者	6名	地山の掘削及び土止め支保工作業主任	7名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任	5名	鋼橋架設等作業主任	5名
木造建築作業主任	1名	石綿作業主任	3名
鉛作業主任	5名		

企業概要(その他の取組み)



健康経営優良法人



健活企業宣言

沿革概要

時期	概要および出来事
2003年 ∩ 2013年	【個人の技量と経営マインドの醸成期】 建設業の父の影響と、ピーエス三菱での現場経験を通じて、橋梁に関する深い知識を得ました。 さらに独自の「逆算の思考法」を活かした業務ノウハウを確立した時期です。
2013年 ∩ 2018年	【独立・差別化と組織の土台作り期】 社長就任後、他社との差別化を図る「提案型」の仕事へシフトしました。 また、総務部を設置して組織的に業務を遂行することで、開発にも取り組める体制が整いました。
2018年 ∩ 2019年	【イノベーションと人材育成の深化期】 海外視察を機に革新的な材料と出会い、高付加価値ビジネスへ転換しました。 同時に、社員への権限委譲を進め、「自ら考える組織」への変革を図りました。
2020年 ∩ 2026年	【組織的品質経営とビジネススキーム確立期】 ISO認証取得により属人性を最小化し、組織としての品質・安全を確立しました。 独自技術と特許戦略により、高付加価値で模倣困難なビジネスモデルを築きつつあります。

出来事

- 幼少期** 父が建設業を経営しており、「地図に残る仕事」への憧れを持ち育ちました。サッカーチームでは、仲間とのパス&フォローを通じた先を読む思考と行動力を身に付けました。
- 1996年** 株式会社ピー・エス(現・ピーエス・コンストラクション)へ入社しました。入社当時は橋を製造する工場に配属され、主桁構造を深く学ぶ機会を得ました。
- 2000年** 工事課へ転籍し、2級土木施工管理技士を取得しました。工事課時代には多忙な中で、「検査に必要な書類は何か」「そのためにはいつ工事を終わるべきか」と「逆算の発想」で乗り切りました。また、同僚の現場で発生した事故を機に、それ以来の新規入場者教育では、「事故が起きたら、待っている家族がどんな気持ちになる？」と問いかけを徹底しました。「事故を起こさないようにすることが仕事」という信念は、この時の原体験から形成されています。
- 2007年** 徐々に独立を決意。「会社の池元」ではなく「池元博之」個人として評価されるよう、あえて難しい現場を志願して技術を研鑽しました。
- 2009年** 妻が廃業予定の企業を引き継ぎ、リース業の総合商社IKEMOTO(後のIHMコーポレーション)を開業しました。後に、建設業を志す知人を採用して橋梁上部工事にも乗り出し、独立後の準備を進めました。この頃、鉄道工事に携わる機会が増え、鉄道ならではの業務知識やルールを習得しました。

知的資産

- 【人的資産】逆算の思考法:検査から書類、工事へと逆算して工程の余裕を把握する管理能力。
- 【人的資産】橋梁の構造知識:工場勤務で橋の内部構造を熟知し、図面から現場を立体的にイメージする能力。
- 【理念資産】家族を想う安全観:「事故を起こさないのが仕事」という、家族の心情に寄り添う安全意識。

出来事

- 2013年** 株式会社ピーエス三菱を退職し、株式会社IKEMOTOの社長に就任しました。
当時、主要顧客であった広成建設様の橋梁工事の中でも耐震工事で参入の余地があると着目しました。
そこで、「グラウト注入工法」などを提案・実行しました。
既存の取引先関係を崩すことなく、「橋のことはIKEMOTOに聞けば何とかなる」という独自の地位を築きました。
- 2015年** 建設事業とリース・商社機能を分けるため、IHMコーポレーション株式会社を設立しました。
労災保険のリスク管理やグループとしての一体運営を見据えた体制づくりを進めました。
- 2017年** 総務部を設置し、事務や安全書類の作成を組織的に遂行する体制を整えました。
推進役の総務部長が、慣れない業務にも食らいつき、状況を踏まえて先回りする対応力を発揮してくれました。
これにより、現場実務から離れ、開発や経営に注力できる環境が整い始めました。
- 2018年** 鉄道現場での感電防止のため、FRP常設足場技術「MULBERRY(マルベリー)」を開発しました。
当時、業界で「FRPパネルを使った工法は無理」という定評がありましたが、それを覆して実現しました。
「0を1に変える経験」となり、宮地エンジニアリングが製造し、日建リースが提供するという現在のビジネスモデル拡大の端緒となりました。

知的資産

- 【関係資産】 取引関係の構築:顧客(広成建設様)の橋梁工事を担う提案を行い、パートナーとしての地位を確立。
- 【組織資産】 役割分担の仕組み:総務部の設置により、現場実務から離れ、開発や経営に注力できる体制を確立。
- 【人的資産】 「空気を読む」サポート力:言葉にしなくても社長の意図を汲み取り、先回りする事務・管理能力。

出来事

2018年 帝人フロンティア様とのご縁で、米国で開催された展示会「ワールド・オブ・コンクリート」を視察しました。その会場で高機能繊維「ザイロン」を紹介されました。

ザイロンはF1の部材にも採用されるほど、引張強度・弾性率が高い合成繊維です。一方、非常に高価であるため、材料にコストをかけにくい工事現場において実用化できるか未知数でした。

当時、イタリアでは橋梁の補修に採用されているという情報を聞きつけ、現地に足を運んで視察させてもらうなど、自ら情報収集と吟味を重ねた結果、日本の現場でも活用できると確信しました。

その後、「材料は高いが、軽量化により工期短縮できるため採算が合う」という現場視点の提案により採用が決まり、業界でも注目される「レジフォルテZ工法」へと繋がりました。

2019年 社員数が10名程度に拡大する中で、常に「作業員ではなく、仕事師に育てる」という想いをもち、工事会議を通じて社員に対して安全意識や仕事の進め方を指導し、徐々に力量を高めていきました。

一方で、現場ごとに細かく指示を出すことにも限界を感じ始めました。そこで「何かあれば自分が責任を取る」と腹を括り、弊社の河原に現場を任せてみました。

仕事を任せるようになった結果、社員に「自分たちで考える」習慣が根付き、現場に出なくても資料の確認と気になる現場の確認だけで安心して任せられるようになりました。

知的資産

【関係資産】 大手との共創関係: 技術的な解決策を提示することで築いた対等なパートナーシップ。

【情報資産】 新素材の活用ノウハウ: どの材料をどのように使えば採算が合うかという独自の知見。

【人的資産】 社員の自律性: 社長の細かい指示がなくても、工程表とQ&Aを基に現場を完遂できる社員の実力。

出来事

- 2020年** ISO9001およびISO45001の認証を取得しました。これにより、さらに属人性を排した組織的な品質・安全管理体制へと進化しました。
- 2020年** 新幹線上空の橋梁補修工事で「落下物は絶対NG」の足場工事について相談を受けましたが、従来のチェーン・ターンバックルでは実現不可能と判断しました。当時耳にしたマグネット磁石の技術をヒントに、日建リース工業との協力の下でマグネット磁石・FRPパイプ・三角ブラケットを用いたユニット足場工法「FMAシステム」を考案しました。この工法については、自社で開設した製品開発試験場で2年間の実証試験を経て安全性を証明しました。人が「無理」という案件を「やってやろう」と捉える思考法が他社では実現できない独自工法を生み出しました。
- 2023年** 社員の健康と業務の円滑化を目指し、健康経営への取り組みを開始しました(翌年認定取得)。
- 2024年** 日建リース工業と共同でユニット足場工法「FMAシステム」の特許を取得しました。
IKEMOTOが技術開発、日建リースが全国営業を担うというビジネススキームを確立し、全国の補修現場へ展開しています。
- 2026年** 中国地方の現場でFRP常設足場技術「MULBERRY(マルベリー)」の足場施工を予定しています。さらに首都圏で同技術の利用の相談を受けており、当社が技術提供させて頂く予定です。

知的資産

- 【組織資産】 独自工法と特許:「FMAシステム」などの特許技術と、それを支える商標登録。
- 【組織資産】 ビジネススキーム: 開発・提供の役割を提携先と役割分担し、独自技術を全国に提供する仕組み。
- 【情報資産】 一元化された現場情報: サイボウズやDropBox等のICTを活用し、どこでも業務可能な情報共有基盤。

業務フロー(概要)

相談／問題の把握

現場調査／提案

工程検討／事前準備

現場施工

実施事項概要

エンドユーザー(鉄道会社等)からトンネルや橋梁の変状(ひび割れ、漏水、塩害等)についてヒアリングを行います。単に現象を聞くだけでなく、提供された図面から構造や建設当時の時代背景(高度経済成長期の施工状況など)を読み解き、隠れた課題やリスクを特定します。豊富な経験に基づき、打合せの段階で現場の状況をイメージし、即座に問題の本質を把握することが起点となります。

現地調査にて、坑口からの距離や作業スペース等の物理的制約を正確に計測します。その上で、足場不要の工法や短時間施工が可能な独自技術(FMAシステム、レジフォルテZ工法等)を提案します。必要に応じて自社保有の試験体トンネルでの実演を行い、「百聞は一見に如かず」で技術を証明します。見積段階で複数のプランを用意し、顧客の予算感に合わせつつ納得頂ける業務の委託を受けます。

受注後、工事会議にて詳細な施工シミュレーションを行います。サイボウズやWowTalkを活用して場所を選ばずに書類を作成・共有し、業務効率を高めます。施工2週間前にはリスクアセスメントを実施し、協力会社との着工準備会を経て、人員・機材・安全対策を万全に整えます。社長が細かく指示するのではなく、社員が主体的に考え、手戻りのない確実な準備を行うフェーズです。

鉄道の「運行優先」を絶対条件とし、線路閉鎖を最小限に抑える工法などで安全に施工します。現場の状況はDropbox等でリアルタイムに共有され、事務所にいながら進捗管理が完結します。ISOに基づく厳格な安全基準と現場規律を徹底し、無事故・無災害を実現します。この確実な施工完了が、顧客からの絶対的な信頼と次の高難度案件の相談へと繋がります。

特徴

- ◎ 豊富な経験に基づく「提案型」の技術実証スタイル
- ◎ 鉄道・橋梁補修に特化した独自工法
- ◎ 線路閉鎖を最小限とする施工技術
- ◎ 徹底した事前調査と「逆算」による計画
- ◎ ISOに基づく組織的な品質・安全管理

顧客提供価値

- ◎ 安心して仕事を任せられる。
- ◎ 現場が計画通り円滑に終わる。
- ◎ 現場に詳しい人材が減る環境において安全運行を継続的に実現できる。

業務フロー（相談／問題の把握）

実施事項

- ◎エンドユーザー（鉄道事業者等）と直接面談して、現場で発生している品質の変状（形、色、ASR、塩害など）や使用されている材料について詳細なヒアリングを行います。
- ◎図面の提供を受け、構造物の特殊条件や施工箇所を机上で確認します。
- ◎建設された年代（高度経済成長期など）を考慮し、当時の施工基準（被り厚不足や海砂利用の可能性など）と照らし合わせて、図面に表れない潜在的なリスクを洗い出します。
- ◎顧客が抱える悩み（工期短縮、足場設置困難など）に対し、自社の独自工法が適用可能かどうかの初期判断を行います。

差別化ポイント

【即座の問題特定能力】

豊富な現場経験と橋梁内部構造への深い理解により、ユーザーの話を聞くだけで現場の状況を立体的にイメージし、打合せの場で問題箇所を特定できます。

【根本原因へのアプローチ】

表面的な修繕の相談であっても、「なぜその変状が起きたか」という根本原因に目を向け、同時施工すべき箇所や長寿命化のための本質的な提案を行うことができます。

【逆算の思考法】

完成形や検査基準から逆算して現状を捉える思考法により、顧客自身も気づいていない制約条件やリスクを早期に発見し、手戻りのないプロジェクト進行を可能にします。

業務フロー（現場調査／提案）

実施事項

- ◎現地調査を実施し、坑口から現場までの距離、資材搬入経路、作業スペース(空頭制限等)を写真撮影とともに正確に計測します。
- ◎現場の制約条件に基づき、課題を解決する最適な工法を選定・提案します。
- ◎必要に応じて、本社近くにある自社保有の製品開発試験場にて、技術の実証実験(デモンストレーション)を顧客に見学して頂きます。
- ◎図面や現場写真を使用した分かりやすい資料を作成し、難易度や工期、予算の兼ね合いから複数の選択肢を用意して契約交渉を行います。

差別化ポイント

【「できない」を覆す技術力】

他社が「施工不可能」と断念するような難所に対して、工期短縮や安全運行を担保できる技術的な裏付けのある独自の工法(特許技術等)で解決策を提示します。

【実証重視のプレゼン】

「百聞は一見に如かず」の精神で、製品開発試験場では、模擬体の実証実験を行っているため、机上の空論ではなく「本当に施工できる」という確信を顧客に与えることができます。

【(条件が変わらなければ)追加費用のない精緻な見積】

詳細な下見と「逆算の発想」による検討を経ているため、施工段階での想定外による追加費用の交渉が不要となり、顧客の手間を省きます。

業務フロー（工程検討／事前準備）

実施事項

- ◎週1～2回の頻度で工事会議を開催し、担当社員が作成した工程計画についてシミュレーションとQ&Aを行い、計画に不備が無いか検証します。
- ◎クラウドツール(サイボウズ、WowTalk)を活用し、場所を選ばずに施工計画書等の書類作成・確認・修正を行い、得意先へ提出します。
- ◎施工2週間前までに現地でリスクアセスメントを実施し、特状(特殊条件)を確認してチェックリストを作成します。
- ◎協力会社と工期・人数の調整を行い、役割分担、スケジュール、安全注意事項を最終確認します。

差別化ポイント

【社員の自律的成長】

初めての工法以外は社長が過度に介入せず、社員に「食らいつき具合」を考えさせることで自ら判断できる「仕事師」としての責任感と実力を育てています。

【厳格な準備姿勢】

一流の「仕事師」としての自覚を持ち、1工程ずつ詳細に検討し、現場の条件不足を徹底的に排除する準備を行うため、スムーズな着工が可能になります。

【強固な協力体制】

当社の厳しい安全基準を共有する精鋭の協力会社と連携し、着工前から元請に対して「IKEMOTOチームなら安心」という信頼感を醸成しています。

業務フロー（現場施工）

実施事項

- ◎鉄道のダイヤを守るため、「運行優先」を徹底し、現場毎に最適な工法や短時間施工で安全に作業を進めます。
- ◎Dropbox等のクラウドストレージを活用し、現場写真や日報をリアルタイムで共有。進捗状況、人工、作業完了報告を即座に社内へ伝達します。
- ◎ISO9001に基づく品質管理と、ISO45001に基づく労働安全衛生活動を実践し、現場の整理整頓(5S)や新規入場者教育での安全対話を徹底します。
- ◎作業ごとの原価を意識した施工を行い、無駄な動きやコスト発生を抑制しながら完工を目指します。

差別化ポイント

【所在不問の管理体制】

詳細なデジタル報告体制により、社長が現場に出向かなくても状況を完全に把握でき、完工検査の立会いも不要とされる信頼(ブランド)を確立しています。

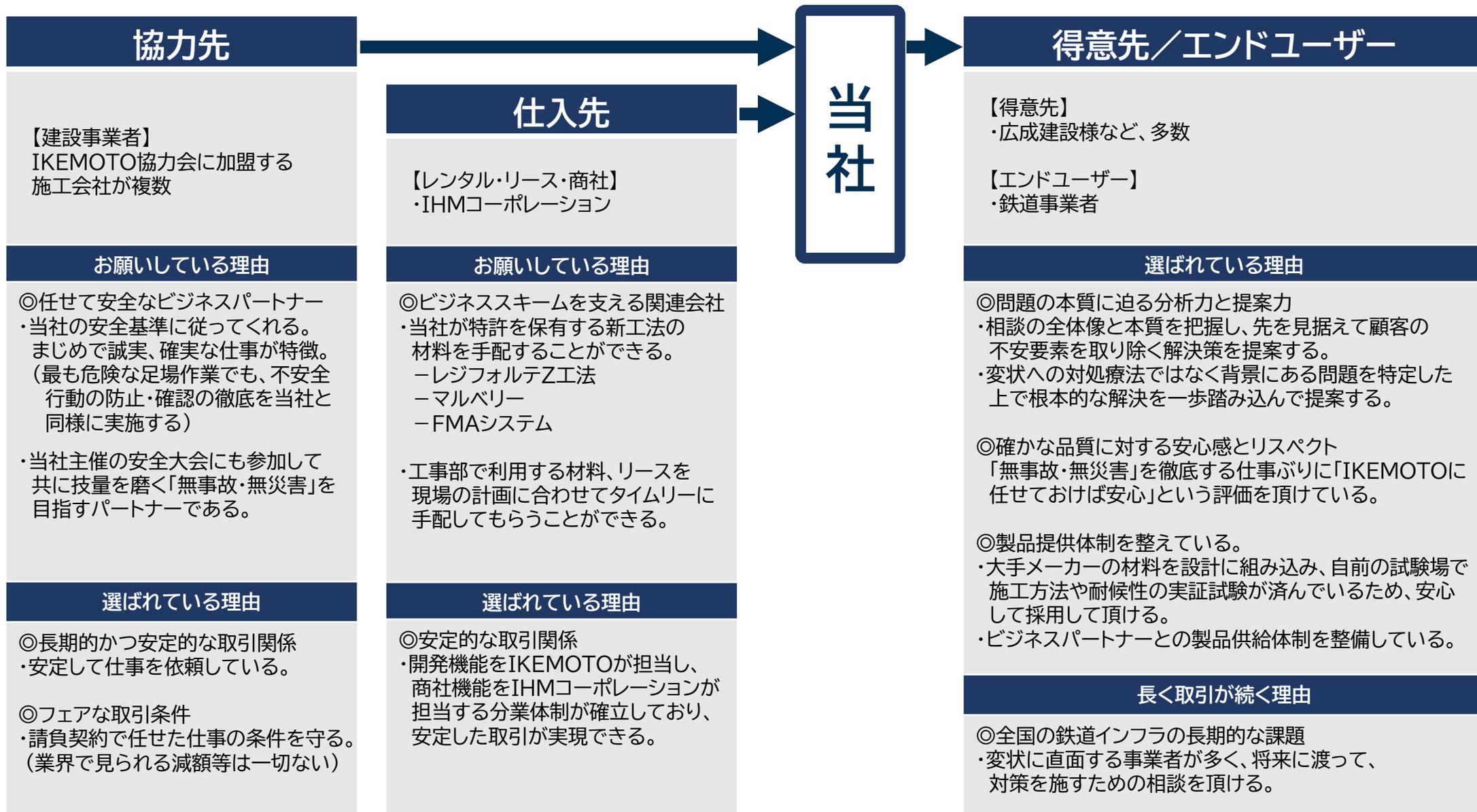
【無事故が生む高収益】

徹底した安全管理により事故処理などの「後ろ向きなコスト」が発生せず、結果として高い利益率を維持し、顧客にも安心を提供し続けています。

【仕事師集団の現場】

礼儀正しく、整理された美しい現場作りを徹底することで、単なる作業員ではなく「誇り高いプロフェッショナル集団」としての評価を得ています。

商流 【価値の連鎖と選ばれている理由・お願いしている理由】



当社の知的資産

「知的資産」とは、バランスシートには記載されない、企業活動の源泉となる「無形の資産」である。具体的には、人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れない、経営資源の総称を意味する。

理念資産

「企業活動の方向性やあるべき姿を示した資産」

会社の根源にある存在価値を明文化したものである。
組織活動の根本にあり、実現すべきこととして社内外に表明する資産

組織資産

「組織の『仕組み』として定着している資産」

システム、マニュアル、ルール、定着している技術など、特定の個人がいなくなっても組織に残る資産

関係資産

「組織の対外的な関係性に付随した資産」

取引先との協力関係、信用、顧客満足度等、外部との関係で築かれる資産

人的資産

「経営者や社員など、『人に属する』資産」

社長の「顔」、ベテラン社員の勘や経験など、日々の業務や研修等により強化される資産

当社の知的資産 【理念資産】

■理念資産 | 「無事故こそ最大の利益」という絶対的信念



「事故を起こさないことが仕事である」という強固な信念が経営の根幹にあります。これは単なるスローガンではなく、「事故は事後処理に多大な労力を要し、利益と信用を失う最大の要因である」という合理的な経営判断に基づいています。そのため、現場では効率よりも安全を最優先し、働く社員とその家族が悲しむような事態を絶対に起こさないことを誓っています。この「人命尊重」と「安全こそが最大の収益源」とするぶれない哲学が、協力会社を含めた全ての行動規範となり、顧客からの信頼へと繋がっています。

■理念資産 | 現場の隅々まで行き届く「予見する安全」と「美意識」の定着



安全理念が組織の血肉となった結果、社員一人ひとりが「言われなくても危険を予知する」高い現場力が定着しています。現場担当者は作業の先にあるリスクを自ら予測し、リスクアセスメントを徹底することで、指示待ちではなく自律的に安全を確保しています。また、整理整頓(5S)が徹底された現場は常に美しく保たれており、その規律正しさが施工品質の高さと安全性を視覚的に証明しています。この「現場をきれいに保ち、スマートに仕事をこなす」という洗練された空気感が、得意先や鉄道事業者に「IKEMOTOの現場なら安心だ」という確信を与えています。

当社の知的資産 【組織資産】

■組織資産 | 無事故・無災害を最重視する、徹底的な安全管理体制



当社では、「無事故・無災害」こそが企業の存続と利益の源泉であると定義し、組織運営の最優先事項に据えています。この方針に沿って、ISO45001に基づく労働安全衛生マネジメントシステムを導入し、属人性を排した厳格な管理体制を構築しました。具体的には、施工前には必ずリスクアセスメントを実施して潜在的な危険を洗い出し、日々のKY(危険予知)活動を通じて、その対策を現場の末端まで徹底させています。協力会社を含めた全員が高い安全意識を共有し、予知・予防を組織的に繰り返すことで、事故を未然に防ぎ、お客様への絶対的な安心を提供し続けています。

■組織資産 | 「実証技術×特許戦略」による高付加価値ビジネスモデル



深刻な人手不足に直面する鉄道業界において、当社は「確かな技術」で課題を解決する独自のポジションを確立しています。最大の特徴は、自社保有の製品開発試験場での実証実験により、新技術の実効性を証明できる点にあります。これにより顧客の不安を排除しつつ、特許で保護された独自技術で他社の追随を許さない独占的な市場を作っています。他の方法では対応できない現場の課題を高度な技術で解決できるため、全国展開を最適化したスキームと共に、持続可能な高付加価値ビジネスモデルを確立しています。

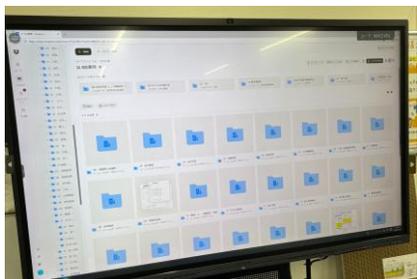
当社の知的資産 【組織資産】

■組織資産 | 社員への「信頼」が生んだ、現場が自ら考え完結する自律的運営



トップダウン型の管理から脱却し、現在は経営者の関与は「重要なポイントの確認」と「最終責任を取ること」に徹することで、社員への大胆な権限委譲を実現しています。これまでの工事会議で、詳細な指示を出すのではなく、工程表に基づいたQ&Aを通じて社員に施工シミュレーションを促す指導スタイルで社員の主体的な思考の育成と安全意識の醸成を続けてきました。これにより、社員が自ら考え、判断して現場を回す「仕事師」としての自律性が育ち、社長不在でも現場が滞りなく完結する組織体制が構築されています。

■組織資産 | 徹底した報連相とICT活用によるクイックレスポンス



サイボウズ、Dropbox、WowTalkなどのITツールを駆使し、現場の進捗、スケジュール、最新の施工書類を全社員がリアルタイムで共有できる環境を整備しています。この基盤の上で徹底した「報連相」を行うことにより、常に全体の状況を把握できる透明性の高い組織を実現しました。また、事務所にいなくても、どこからでも必要な情報や書類にアクセスできるため業務が滞ることがなく、社員全員が常に最新の状況を理解し、「次に何をすべきか」を判断してスピーディーに取り組む機動力の源泉となっています。

当社の知的資産 【関係資産】

■関係資産 | 大手素材メーカーや日建リース工業との強固な協業体制



帝人株式会社やデンカ株式会社といった大手素材メーカー、そして業界最大手の日建リース工業株式会社と、強固なパートナーシップを築いています。この結果、メーカーが持つ優れた素材に当社の現場知見を組み合わせ、革新的かつ実用的な新工法を提供できています。さらに日建リース工業と共同特許を取得し、同社の全国的な営業網を活用して技術を展開するビジネススキームを確立しました。開発はIKEMOTO、販売は日建リース工業という得意分野での分業体制により全国規模のインフラ課題を解決できる体制を実現しています。

■関係資産 | 「無事故・無災害」の継続と貢献で築いた、途切れることのない信頼



私たちの事業は、鉄道インフラの「運行優先」を絶対条件とし、お客様のダイヤ調整の手間やリスクを最小限に抑えるための努力を積み重ねてきました。線路閉鎖を最小限とする工法の提案や、難しい工事にも挑む姿勢は、「お客様の困りごとを解決し、社会に貢献したい」という一心からです。事故処理などの不安や労力を一切かけさせない「無事故・無災害」の徹底を含め、こうした実直な貢献が評価され、得意先やエンドユーザーから「IKEMOTOになら安心して任せられる」という評価と共に、長年にわたり途切れることなくお仕事を頂ける関係を築いています。

当社の知的資産 【人的資産】

土木工事部 工事課長 河原 直嗣



・主な業務内容

現場打合せへの出席や施工管理、工程表、安全リスクアセスメント表等の資料作成、現場で使う材料の拾い出しと調達その他、同僚が作成した資料の確認等を行っています。

・仕事で工夫をしていること

お客様だけでなく協力会社のメンバーなど現場で関わる人が多いため、周囲の人との確認会話を通じてすりあわせをすることで、業務の後戻りが無いように注意しています。

また、現場で目にする全ての細部に気を配り、危険の芽を摘むことにも気を配っています。例えば場内の段差のつまづき対策、場外への飛散防止など危険要素を1つずつ排除する取組みを心がけています。

・やり甲斐を感じるのはどのような時？

担当する現場が無事に終わった時には達成感があります。過去に橋梁の撤去工事を担当した際には、目の前の景色が開けて見晴らしが大きく変わりました。「地図に残る仕事をやりきった」のだと感慨深く感じました。

・これから取り組んでいきたいこと、将来の目標

安全を守りつつ確実な業務を実現するため、土木工事部のメンバーと互いに仕事の内容を確認しながら進める必要があるため、何でも聞いてもらいやすい存在になって働きやすい職場を作ると共に、大きい現場でも任せてもらえるように成長したいと思います。

工事に対する興味・関心を持ち続け、知識を身に付け、現場経験を積むことで、お客様から「次の仕事もIKEMOTOにお願いしたい」と言って頂けるように努力していきたいです。

当社の知的資産 【人的資産】

土木工事部 工事主任 秋田 光輝



・主な業務内容

社内の工事会議での打合せや現場の下見を経て、同僚や協力会社と共に現場に赴いて、橋梁の修繕、補修、耐震工事やトンネル工事などの施工を担当しています。

・仕事で工夫をしていること

無事故・無災害を継続するための安全対策を徹底することはもちろんですが、鉄道の現場は作業できる時間が非常に限られています。そのため、現状で最善と思われる手順であっても、「もっと改善できる余地はないか」と常に考え続けています。また、補修の効果が確実に得られる仕上がりになっているかという品質面にも細心の注意を払い、注意すべきポイントを現場のメンバーとしっかり共有するように心がけています。

・やり甲斐を感じるのはどのような時？

現場の同僚に技術を伝えた結果、作業が熟練していき、次第に彼らが「教える側」へと成長している場面に出会うととても嬉しく感じます。また、レジフォルテZ工法をはじめとする最先端技術の施工を担当させていただくことに、プレッシャーを感じることもあります。しかし、どうすれば確実かつ効率よく作業ができるかを考えながら、現場での技術を確立していく仕事でもあるため、やりがいを感じています。

・これから取り組んでいきたいこと、将来の目標

私自身は職人気質だと思っているので、技術面では誰にも負けたくないという強い思いがあります。今後も様々な現場に出て経験を積んで技術を身につけていきたいです。また、社員一人ひとりが活発に意見を出し合ったり、各自の特性に応じた強みを磨き、互いに高め合うことで、より強い会社を作っていきたいと考えています。

当社の知的資産 【人的資産】

総務部 部長 井口 有紀



・主な業務内容

総務部長として事務・人事に関する業務全般に加えて、社長の方針に沿ってISOマネジメントシステムの更新、SDGs宣言の策定、健康経営優良法人申請等の経営企画にも携わっています。

・仕事で工夫をしていること

情報感度の高い社長から、新しい制度や取組みについて大まかな方針を示された後は、調査して具体的な案を策定する等、経営方針と社長の意図を汲み取って実現できるように心がけています。

また、最近は総務部員が増えたため、業務の可視化・標準化にも取り組んでいます。一人で事務を担当していた頃から1つずつ積み上げてきた内容も、改めて客観視して会社全体の業務がスムーズに進むように、部員と共に取り組んでいます。

・やり甲斐を感じるのはどのような時？

新しい制度への取組み・ミッションが、完成形に仕上がったり達成できた時には嬉しく思います。

また、出張が多い社長に移動中の空き時間を使って資料を確認して頂けるよう、タイミングを見計らって資料を共有したり、社内のメンバーの動静を把握して連携を取りながら書類や材料の手配をスムーズに調整できた場合など、皆さんより一歩先回りする仕事ができただけ時にはやりがいを感じます。

・これから取り組んでいきたいこと、将来の目標

総務部として仕事の標準化を通じて、会社の業務がスムーズに進むようにしたいです。その結果、皆さんが働きやすく、会社も社員も成長できるような職場にしていきたいです。

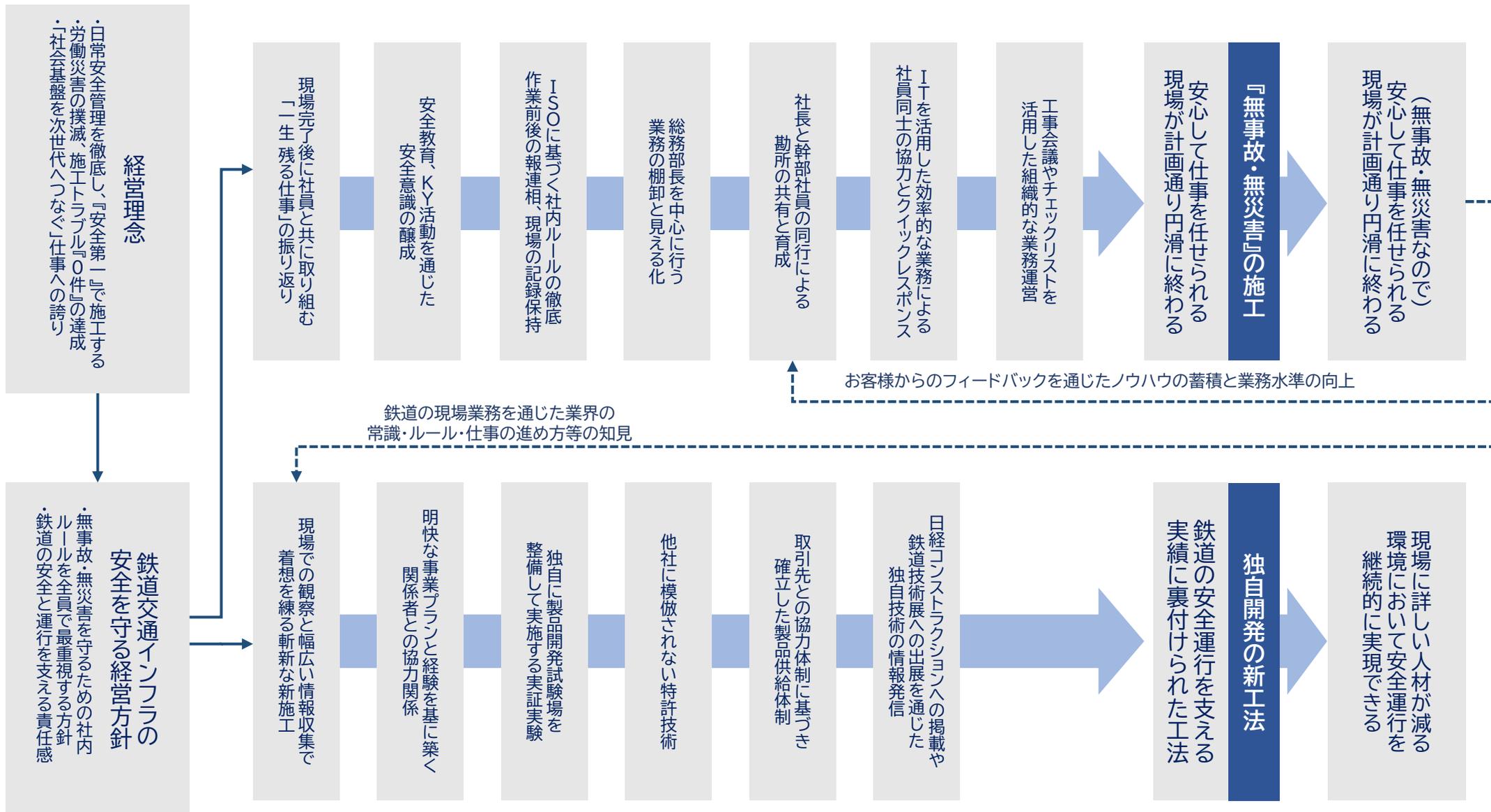
現在価値ストーリー

経営理念・方針

知的資産のつながり(取組み・仕組み)

サービス

顧客提供価値



経営環境 (1/2)

分野	現在の状況	変化予測	当社への影響
<p>【お客様】</p> <p>現場を担う人材の減少と安全運行の両立</p>	<p>現場を担う人材が減少する一方で、鉄道事業としての安全運行が求められている。</p>	<p>今後も現場の人材が減り、変状を来たすトンネル・橋梁が増加する中で、安全運行を求められる。</p>	<p style="text-align: center;">+</p> <p>工期を短縮して効率的な保守・修繕を行う必要から、当社が提供する革新的な工法へのニーズが増す。</p>
<p>【お客様】</p> <p>確立された技術への信頼</p>	<p>安全に対する責任が重く、信頼性や安定性が確立した技術を採用する傾向が強い。</p>	<p>今後も信頼性と安定性がある技術を志向する姿勢は変わらない。</p>	<p style="text-align: center;">+</p> <p>自社の試験場で実証実験を行い、本線での採用実績が増える。結果的に相談を頂く機会も増える。</p>
<p>【市場】</p> <p>交通インフラにおける鉄道の重要性と成長性</p>	<p>交通インフラにおける鉄道インフラの重要性は高く、市場規模は維持されている。</p>	<p>鉄道インフラは大量輸送を実現する交通手段としての重要性を維持する。また、地域別に拡大・縮小が見込まれるものの、修繕に対する投資は持続する。</p>	<p style="text-align: center;">+</p> <p>鉄道インフラの安全運行を守るため、効率的な修繕を担う技術に対するニーズは増加する。</p>

経営環境 (2/2)

分野	現在の状況	変化予測	当社への影響
<p>【技術】</p> <p>ICTの進展と技術の進歩</p>	<p>遠隔地で作業できる技術が徐々に生まれつつある。</p>	<p>どのような理由であれ、誤作動や故障に起因する事故が許されない現場では人による作業が残る。</p>	 <p>作業環境を把握し、どのような現場にも臨機応変に対応できる、人の手仕事は残り続ける。</p>
<p>【自社業界】</p> <p>建設業を志す若者の減少 万能工の減少</p>	<p>価値観の多様化、働き方の変化などから建設業を志す若者が減少する傾向にある。また、ベテランの万能工も減少傾向にある。</p>	<p>今後も建設業を志す人材は減少し、万能工も減少する。</p>	 <p>現場技術を磨き、万能工を育てる当社にとって、追い風となる。今後も人材減少を先読みして人を育てる。</p>
<p>【競合】</p> <p>革新的な新工法開発に事業における競合の状況</p>	<p>現時点では鉄道業界の現場事情と施工技術の両面でノウハウを保有する競合は見当たらない。</p>	<p>厳しい鉄道業界で経験を積み、開発にも参入する企業が急激に増える兆候は見えない。</p>	 <p>市場と競合の同行を慎重に把握しつつ、実績を積むことで業界でオンリーワンの存在を目指す。</p>

将来ビジョン

座右の銘は「利は天より来たらず」。

利益とは偶然もたらされるものではなく、日々の誠実な仕事の積み重ねによってのみ得られるものです。

だからこそ、私たちは社員の自律的な事業運営によって、経営の原点である「無事故・無災害」を実現していきます。

また、鉄道インフラを守る現場の「声にならないニーズ」と正面から向き合い、常識を覆す新工法の開発に邁進します。

0から1の技術を生み出し、徹底した実証で確かな品質を確認した上で世に送り出すこと。それが私たちの流儀です。

今後は、この独自技術の国内外への普及を加速させます。

確かな技術と安全へこだわり続け「鉄道インフラを守る」社会的使命を全うすると共に、かけがえのない交通インフラを次世代へつなぐことで社会へ貢献し続けます。

0から1を生み、
実証で世に送り出す

誠実な仕事の積み重ね
「無事故・無災害」



インフラを守る
社会に貢献する

独自技術の
国内外への展開

社員の自律的な
事業運営

将来価値ストーリー

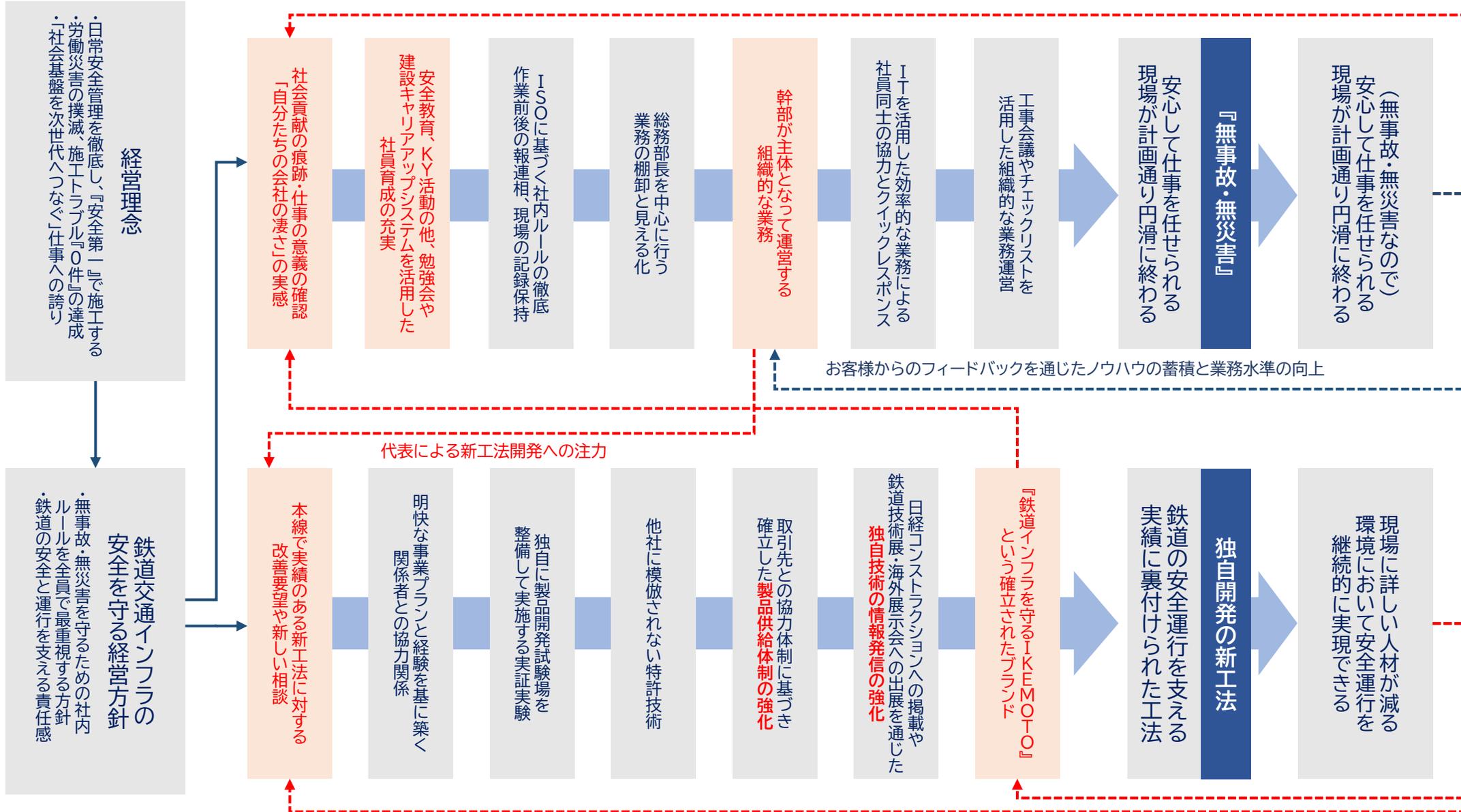
朱書き箇所：将来の強化ポイント

経営理念・方針

知的資産のつながり(取組み・仕組み)

サービス

顧客提供価値



アクションプラン

社員の育成



- ・ 積算・施工・管理の全領域で自律人材を育成
- ・ 勉強会・OJTを通じた継続的なボトムアップ
- ・ 現場をまとめる「仕事師」集団の形成

総務部の組織化



- ・ 代表不在でも業務が回る自律的組織へ
- ・ 業務の棚卸と標準化を推進
- ・ 総務担当者の計画的な採用と育成

新技術開発の強化



- ・ 独自開発した新工法の特許申請・商標登録
- ・ 国内外の展示会への出展
- ・ 鉄道×橋梁分野でのブランド確立

情報発信の継続



- ・ HP・Instagram・YouTube等の活用
- ・ イベントや施工実績等の継続的な情報発信
- ・ 取引先および求職者への魅力訴求

会社概要

商号	株式会社IKEMOTO				
代表者	代表取締役 池元 博之				
設立	2012年12月18日				
資本金	40,000,000円				
業務許可	<ul style="list-style-type: none">●建設業許可:岡山県知事許可(特-6)第24498号 土木工事業 とび・土木工事業 鋼構造物工事業 しゅんせつ工事業 水道施設工事業 石工事業 ほ装工事業 塗装工事業 解体工事業●第一種貨物利用運送事業(中国自貨第47号)●産業廃棄物収集運搬事業(第03300182276号)				
登録	<table><tr><td>品質登録</td><td>安全登録</td></tr><tr><td>ISO9001:2015 認証番号:MSA-QS-4707 認証範囲:土木構造物の施工</td><td>ISO45001:2018 認証番号:MSA-SS-390 認証範囲:土木構造物の施工</td></tr></table>	品質登録	安全登録	ISO9001:2015 認証番号:MSA-QS-4707 認証範囲:土木構造物の施工	ISO45001:2018 認証番号:MSA-SS-390 認証範囲:土木構造物の施工
品質登録	安全登録				
ISO9001:2015 認証番号:MSA-QS-4707 認証範囲:土木構造物の施工	ISO45001:2018 認証番号:MSA-SS-390 認証範囲:土木構造物の施工				

知的資産経営報告書について

知的資産経営報告書とは

「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。

経済産業省から 2005 年（平成 17年）10 月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しております。

知的資産経営報告書の掲載内容について

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘り当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によってこれらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。

よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に亘って保証するものではないことを、ご了承願います。

【知的資産経営報告書に関するお問い合わせ先】

 **株式会社 I K E M O T O**

〒719-1132 岡山県総社市三輪880-14

TEL : 0866-93-9151 FAX : 0866-93-9156